

前線に伴う大雨よる現地調査 (福岡県田川郡添田町)

令和3年8月前線に伴う大雨により8月15日に被災した福岡県添田町において、家屋を巻き込む土砂崩れが発生。福岡県警より救出活動作業への支援要請があったことから、現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、TEC-Doctorを派遣し現地調査及び助言等を実施した。

出席者:九州大学大学院 水野准教授

● TEC-Doctorによる調査(令和3年8月15日)



【今回の災害について】

①崩壊箇所の沢部から大量の水が流出した際、JR英彦山線の線路軌道敷に流れ込み、線路の軌道敷が飽和状態となり、下流へ円弧滑りを起こしたと推察される。

【対策方法について】

- ①流出した土砂は真砂土であり、崩壊土砂の上を歩ける状態なので、家屋に影響する部分の土砂を山側部分から撤去することは可能と考えられる。
- ②家屋が土砂の流入により傾きかけているので、慎重な対応が必要である。(家屋の倒壊等に関しては専門家の確認が必要である)